



—東地中海地域ニュース—

アフガニスタン：カルザイ大統領の和平対話呼びかけに対するオマル師の声明
(11月25日付パジュフク通信)

11月25日付パジュフク通信は、ターリバーン最高指導者オマル師が声明の中でカルザイ大統領の和平対話の呼びかけを拒否したことについて報じている。概要は下記の通りである。

1. 25日、ターリバーン最高指導者のオマル師は、カルザイ大統領が就任演説の中でターリバーンへの和平対話を呼びかけたことに対し、これを拒否するとともに、アフガニスタン国民に対してカブール「傀儡」政府との決別を強く求めた。こうしたオマル師の声明は、カルザイ大統領が就任演説の中で、テロを放棄する用意があるとする元ターリバーン関係者を政府に取り入れることが重要であるとしてターリバーンに手を差し伸べた一週間後に発出された。
2. オマル師の声明
 - (1) アフガニスタン国民は、当国への侵略軍の駐留を正当化し長引かせる対話に合意するはずがない。アフガニスタンは我々の生まれ故郷である。
 - (2) (闘士に対し、政府およびその仲間に対する攻撃を継続するよう求めるとともに、民間人を殺害しないよう強く求めた上で) 闘士諸君が正当なジハードおよびイスラムの大望を実現するための闘争を継続するとともに、カブール傀儡政権と決別することを望んでいる。
 - (3) 我が国を支配し、国民を人質としている者たちは、彼らの植民地主義者的目的を達成するために、選挙のドラマを利用したように、交渉という謀略を用いようとしている。しかし、アフガニスタン国民は、当国への侵略軍の駐留を正当化し長引かせる対話には決して合意はしない。
 - (3) (反政府武装勢力が必ず勝利することを強調しつつ) わが祖国における現実、侵略者が今にも脱出しようとしていることを示唆している。(米軍およびNATO軍が軍事作戦において民間人を殺害していると非難するとともに、囚人を虐待しているため、彼らは人権侵害の罪を犯していると述べつつ、アフガニスタン戦争は欧米諸国によるイスラムを冒涇する試みであるというターリバーンのレトリックを繰り返した上で) 米国人とその仲間達は、陰に陽にイスラム世界を不安定化させ、イスラム諸国間を分断するための計画をコツコツと実施してきたのである。